河原町埋蔵文化財調査報告書　第10集

鳥取県河原町

和奈見遺跡発掘調査報告書

1995. 3

河原町教育委員会

鳥取市教育委員会

鳥取県河原町　和奈見遺跡発掘調査報告書　河原町教育委員会

序　　文

この報告書は、県営和奈見地区土地改良総合整備事業（ほ場整備事業）に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録であります。

この遺跡が所在している和奈見集落周辺は、以前に実施した発掘調査や文献等でも解かるように河原町内でも有数の文化遺産の宝庫であり、古くから文化が開けていたことが窺われます。

今回の調査では、このような観点から調査を行い、予想どおり遺構を検出しました。改めて埋蔵文化財分布密度の高さを認識するとともに、調査により付近の歴史の一端が解明されたのではないかと思います。

今後は、町の文化発展のためにも貴重な資料として保存していく所存であります。
調査にあたり絶大なるご協力をいただいた現地の関係者の方々、また調査実施にあたりご指導ご協力を賜りました関係各位に対し、深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

1995年3月

河原町教育委員会
教育長　中　村　勝　實

例　　言

1．本報告書は、河原町教育委員会が県営和奈見地区土地改良総合整備事業実施に伴い、鳥取県八頭地方農林振興局長より委託を受けて、平成６年12月６日から12月20日の間に実施した鳥取県八頭郡河原町大字和奈見に所在する埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．調査関係者は次のとおりである。

調査団長	中　村　勝　實（河原町教育委員会教育長）
調査指導	山　枡　雅　美（鳥取県埋蔵文化財センター）
調 査 員	中　島　弘　隆（河原町教育委員会主任）
事 務 局	原　　日出男（河原町教育委員会教育課長）
	小　泉　悦　則（河原町教育委員会教育課長補佐）
調査協力	和奈見部落
	鳥取県埋蔵文化財センター

3．発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。

4．挿図中の方位は磁北を示す。

5．挿図中の記号はＳＫ：土壙を表す。

6．報告書は、小泉・中島で協議し、河原町教育委員会が編集、作成した。

7．発掘調査で得られた日誌・図面・写真等は、河原町教育委員会に保管する。

本　文　目　次

Ⅰ　位置と環境……1～2
Ⅱ　調査に至る経過……5
Ⅲ　調査の概要……5
Ⅳ　調査の結果……6
　1．古　墳（和奈見1号墳）……6
　2．土　壙……6
Ⅴ　ま　と　め……10

挿　図　目　次

挿図１　和奈見遺跡周辺遺跡位置図…… 1
挿図２　和奈見遺跡周辺地形図 …… 3～4
挿図３　和奈見遺跡遺構配置図 …… 7～8
挿図４　和奈見１号墳周溝遺構図 …… 9
挿図５　ＳＫＩ遺構図 …… 9

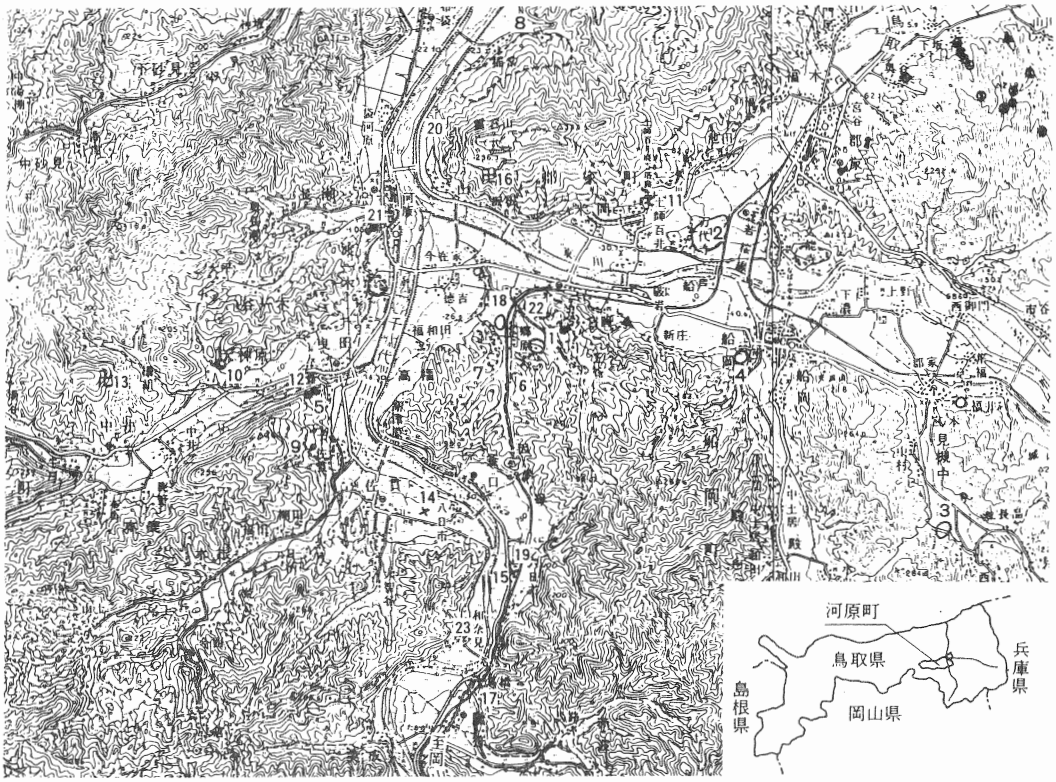
図　版　目　次

図版Ⅰ　和奈見遺跡遠景（調査前）
　　和奈見遺跡近景（調査前）
図版Ⅱ　遺跡全景（Ａ地区）
　　遺跡全景（Ｂ地区）
図版Ⅲ　和奈見１号墳周溝
　　ＳＫＩ

Ⅰ　位置と環境

和奈見遺跡は、鳥取県八頭郡河原町大字和奈見に所在し、蛇行して北に流れる千代川の西岸、北は瓦経が出土した八日市集落、東は銅鉦が出土した六日市集落、そして南の対岸には熊野修験道の拠点で城郭としても用いられたこともある医王山大安興寺がある用瀬町にそれぞれ接したところに位置している。

また、和奈見集落には、八上郡十九座のひとつである延喜式内社「都波奈弥神社」や、北西の桝形山には阿部善内及びその子孫が居住していたと伝えられる升形城（桝形城）跡がある。



挿図１　和奈見遺跡周辺遺跡位置図

凡　例

- × 遺物出土地
- 散布地・集落跡
- ▲ 銅鐸出土地
- 古墳群
- 前方後円墳
- ● 円　墳
- ⊗ 窯　跡

1. 郷原遺跡
2. 万代寺遺跡
3. 牧野遺跡
4. 丸山遺跡
5. 獄古墳
6. 郷原古墳群
7. 山手古墳群
8. 稲常古墳群
9. 大平古墳
10. 天神原古窯跡群
11. 土師百井廃寺跡
12. 式内社売沼神社
13. 羽黒山妙玄寺跡
14. 瓦経出土地
15. 銅鉦出土地
16. 最勝寺
17. 大安興寺
18. 前田遺跡
19. 下中溝遺跡
20. 片山遺跡
21. 丸山城跡
22. 山手森谷上分遺跡
23. 和奈見遺跡

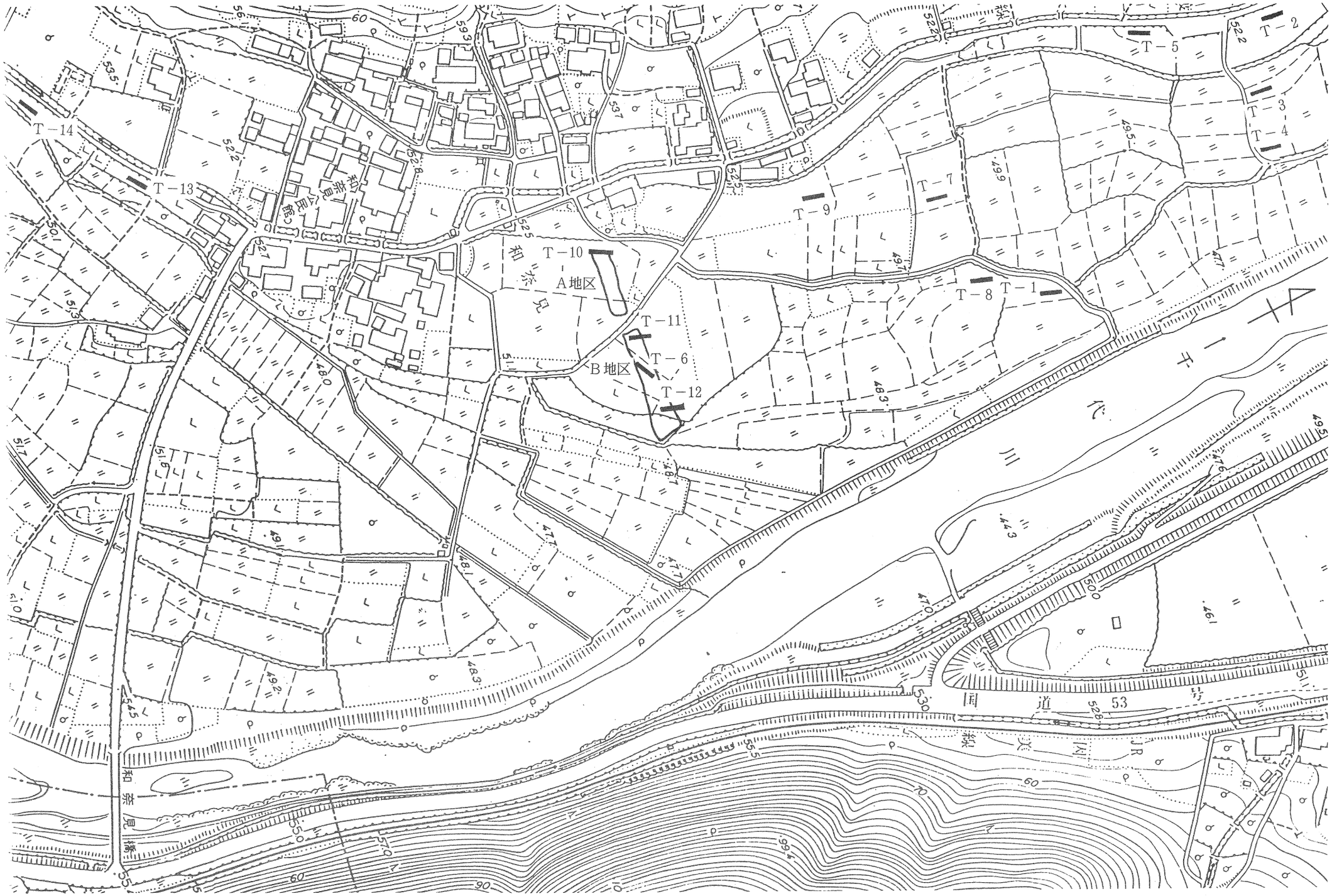
当遺跡が所在する河原町域の歴史・文化をみると、縄文・弥生文化に関する資料は、上土居遺跡、前田遺跡(18)・下中溝遺跡(19)等でそれぞれ数点の土器が確認された程度であり、当時の様子を知るには乏しいが、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての資料としては郷原遺跡(1)・山手森谷上分遺跡(22)で11棟の竪穴住居跡と多数の土器が検出されている。

古墳時代になると、各地に古墳が築造され現在総数127基が確認されている。その内大字曳田の嶽古墳(5)は全長50mと八頭郡内では最大規模を誇る前方後円墳である。さらに、前方後円墳を含む7基からなる郷原古墳群(6)、箱式石棺の内部主体を持つ古墳や、勾玉・銅鏡が出土した円墳など総数7基からなる山手古墳群(7)、そして4基からなる加賀瀬古墳群があり、さらには霊石山支脈上北西側に総数75基からなる町内最大の稲常古墳群(8)等、この時代が栄えていたことが窺える。また、千代川の支流曳田川をさかのぼった天神原(10)、牛戸地区には須恵器の窯跡が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡からは、前田遺跡(18)・郷原遺跡(1)・山手森谷上分遺跡(22)等で多数の掘立柱建物跡や、土師器・須恵器が検出され、下中溝遺跡(19)では、当時の祭祀に使用したと思われる土馬、獣形土製品が検出されている。

中世については、集落跡や遺物など当時の生活等を知ることができる資料が多く確認されている。中でも明和7年（1770年）に発掘された中井字羽黒山妙玄寺跡(13)の経塚遺物、八日市字滝谷出土(14)の瓦経、釜口字西土居出土(15)の銅鉦など寺院に関する文物が多く出土しており、また、前田遺跡(18)出土の呪札等修験道信仰が盛んであったことが窺われる。さらに中世の山城である丸山城跡(21)も興味深い。

このようなことから、和奈見遺跡周辺は数々の歴史・文化を知る上での資料が多く確認されていることなど、古くから文化・信仰・産業等多岐にわたって栄えていたところである。



挿図２　和奈見遺跡周辺地形図　　■ 和奈見遺跡分布調査（トレンチ）

Ⅱ　調査に至る経過

当調査は、平成６年度より実施される予定の県営和奈見地区土地改良総合整備事業（ほ場整備事業）に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。

すでに、この工区内は、土師器・須恵器等多数の遺物散布地として周知されていたところで、発掘調査の必要があった。そして、平成５年度に分布調査を実施する運びとなった。

分布調査では、遺構の有無及び広がりを把握するため鳥取県埋蔵文化財センターに現地調査を依頼し、14本のテストピット（トレンチ）を工区全域（Ａ地区12本、Ｂ地区２本）に設定した。

調査の結果、予想通り３本のトレンチでピット（柱穴）及び土壙状遺構を確認し、遺物も検出した。そして、平成６年度の発掘調査を実施することに至った。

今回の調査は、ほ場整備事業で遺構に影響を及ぼさないように遺構検出場所と調整をはかり、大部分が盛り土になる計画であったため、特に水路工事により遺跡が消滅する恐れのある約600㎡を調査範囲と決定し、鳥取県八頭地方農林振興局長より委託を受けて、河原町教育委員会が平成６年12月６日から12月20日までの期間で調査を行ったものである。

また、調査区周辺の遺跡との関連性など歴史究明の調査としても、意味深い発掘調査である。

Ⅲ　調 査 の 概 要

平成５年度に実施した分布調査で決定した調査面積は約600㎡で、調査区は南北に延びる畔道を界に西側をＡ調査区、東側をＢ調査区と大別した。

調査は、平成６年12月６日からＡ調査区で約30㎝の表土除去から実施した。そして、黒茶褐色粘質土の地山面を検出したが、遺構・遺物はともに確認されなかった。

Ａ調査区に対し、Ｂ調査区は表土が薄く、15㎝くらい除去した後、黄褐色ローム層から大小様々のピット（柱穴）を数個確認した。

調査の結果、ピット・古墳の周溝と思われる円形の溝状遺構、土壙を検出し、土師器片も出土した。全体的に、調査区の東側にピットが集中して検出された。

Ⅲ　調査の結果

今回の調査では、古墳周溝１基、土壙１基を検出した。ピット（柱穴）も数個確認したが、掘立柱建物の検出には至らなかった。

１．古　墳

Ｂ調査区で周溝と思われる窪みを１基検出した。

和奈見１号墳〔挿図４、図版Ⅲ〕

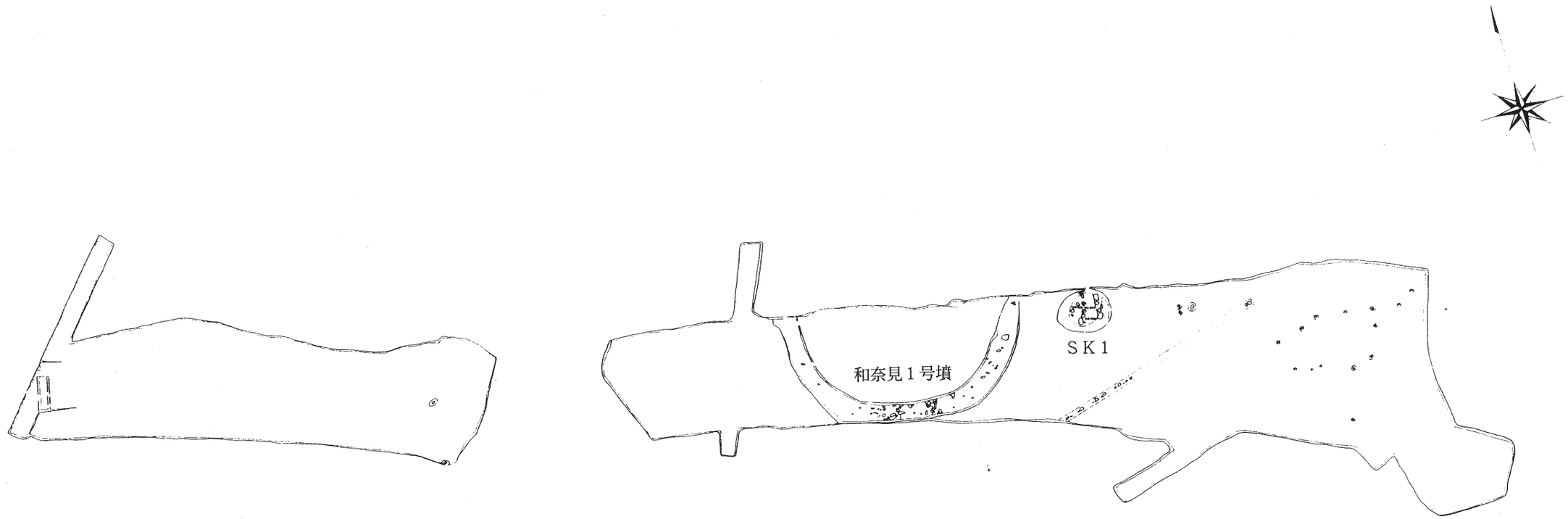
Ｂ調査区の西側から中央部にかけての平坦部に位置している。当初、この場所に古墳が存在していることは皆無であった。しかし、調査により主体部、墳丘等はすでにカットされているものの、底部とそれを取り囲むように周溝が張り巡らされていた。この消滅した古墳を和奈見１号墳と命名する。平面形は、北側部分が調査地区外のため全面検出されていないので推定ではあるが、周溝の形態から隅丸長方形を呈すると思われる。主軸をＮ－９°－Ｅにとり、規模は長軸16.00ｍ（推定）、短軸12.80ｍを測る。周溝の規模は、平均幅1.30ｍ、平均深0.20ｍを測る。周溝内から大小多数の石と古墳時代の土師器が検出された。出土した土師器については、細片のため実測は不可能であった。

２．土　壙（ＳＫ）

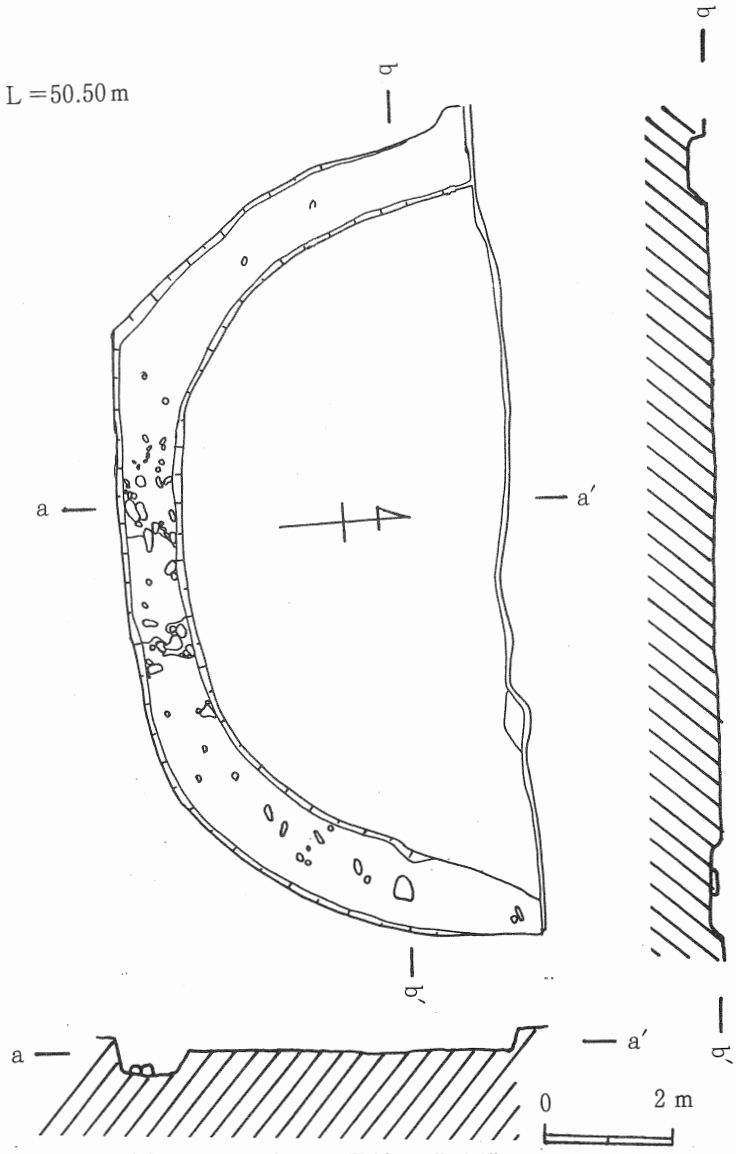
Ｂ調査区で１基検出した。

ＳＫⅠ〔挿図４、図版Ⅲ〕

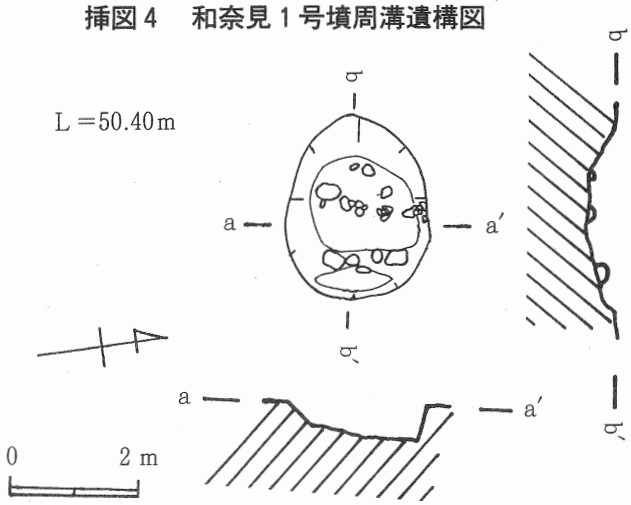
Ｂ調査区の中央部で和奈見１号墳周溝の東側に位置している。平面形は楕円形で、長軸3.32ｍ、短軸2.55ｍ、深さ0.31ｍを測り、主軸をＮ－88°－Ｗにとる規模の大きい土壙である。底面は隅丸方形で長軸 1.85ｍ、短軸1.15ｍを測る。1.00ｍ規模の丸石を多数埋土中に含む。古墳時代の土師器片が数点出土したが、いずれも細片で実測不可能であった。



挿図３　和奈見遺跡遺構配置図



挿図4　和奈見1号墳周溝遺構図



挿図5　ＳＫＩ遺構図

Ⅳ　ま　と　め

今回の調査では、地形上Ａ調査区とＢ調査区に分けて全面発掘調査を実施した。Ａ調査区からは、ピット、遺物等は一切検出されなかった。

これに対して、Ｂ調査区では、中央部分で古墳周溝・土壙、東側部分でピットを検出した。調査面積が限られたため、遺構の検出が最少にとどまったと思われる。しかし、限られた遺構ではあったが、和奈見１号墳が確認されたことで、以前は和奈見集落西側に位置する「山」が千代川岸近くまで迫り出し、これを切均して水田として利用していたことが窺われる。

また、建物跡と推定される柱穴は、数が少なかったため、以前に「集落」が形成されていたのか否かは不明で、さらにＢ調査区中央部分と東側部分を区切るように検出された石列も集落との何らかの関連が予測される。

以上のことから推測すると、古墳時代の頃には、和奈見集落の生活の場が千代川近くに位置していたものと思われる。今後さらに周辺において発掘調査が実施されることによって、和奈見集落の歴史の一端が一層明らかになるであろう。

図　　版

（Ⅰ～Ⅲ）

図版Ⅰ

和奈見遺跡遠景（調査前　南から）

和奈見遺跡近景（調査前　北東から）

図版Ⅱ

遺跡全景（Ａ地区　南西から）

遺跡全景（Ｂ地区　北東から）

和奈見１号墳周溝（南東から）

ＳＫＩ（南から）

和奈見遺跡発掘調査報告書

発行日　１９９５年３月

発行者　河原町教育委員会
〒680－12
鳥取県八頭郡河原町大字渡一木277－1
ＴＥＬ（0858）85－0011

印　刷　谷　岡　印　刷
〒680　鳥取市元町126
ＴＥＬ（0857）26－2001